

ある盲ろう者の夢

アレックス・ガルシア、盲ろう者

いつの日か……私は人類の中で“目立たなく”なる  
いつの日か……人類は失われた我慢強さを取り戻す  
いつの日か……人類は知恵を救い出し、私のコミュニケーションを理解する  
いつの日か……人類は再び、太古のように互いに寄り添う  
いつの日か……人類は偏見から解放され、恐れずに私に私に触れる  
私はいつの日か「壁の中の別のレンガ」ではなくなる  
ピンク・フロイドの「Another brick in the wall」ではなくなる  
いつの日か……現代の精神分析の創始者の1人であるカール・ユングがいう  
「同じ水飲み場で水を飲む」ことは必要ではなくなる  
いつの日か……人類は、盲ろうから「最も恐るべき状態」というレッテルを取り除く  
いつの日か……人類は、  
「孤独であること」は見捨てられることではないと考える  
いつの日か……盲ろうであることが私たちにもたらす「孤独」は、  
私たちが私たちを恐れない未来の種となる  
いつの日か……私は、自分が何者であるのかについての先入観を変え、  
「盲ろう者だ、かわいそう」という言い方を忘れさせる  
いつの日か……人類は私のあり方を見て、  
私の本質と私の苦闘をいずれも価値あるものとし、  
「盲ろう者だ、凄い」と語るようになる  
いつの日か……私は人間の心から「恥」を消し去る、それは管理の道具だから  
いつの日か……すべての人が神の作品であり、平等であるが不完全であることを  
人類は理解し、価値を認める  
いつの日か……私が「いる」のではなく、私は「ある」  
いつの日か……私は「強く」あることを学び、何者にも打ち倒されなくなる  
いつの日か……誰にも忘れられない「私」になる  
いつの日か……私の夢が未来を形づくる  
いつの日か……人類は人間になる

詩「ある盲ろう者の夢」は、盲ろう者のアレックス・ガルシア  
([www.agapasm.com.br/alexgarcia.asp](http://www.agapasm.com.br/alexgarcia.asp)) によって書かれました。